



日本共産党平戸市議会議員

山崎かずひろの市議会だより

2011年10月

ご意見・ご相談をお知らせください
山崎議員は当選以来、毎回の議会で一般質問を行い、「議会報告」(ピラ)も6000世帯に配布しています。日本共産党や山崎議員へのご意見・ご相談など、なんでもお寄せください。
なお、山崎議員の「ブログ」をご覧ください。週2、3回更新しています。

ブログ「平戸日誌」 検索

住所：平戸市岩の上町214-1 ☎・FAX：0950-23-8021 携帯：080-1002-2248 メール：yk1922@wind.ocn.ne.jp

5年から10年で原発から撤退を

ストップ!

玄海原発の再稼働



各地で「原発からの撤退」「原発減らせ」という集会やデモ、署名がとりくまれています



平戸大橋から30km地点にある玄海原発

山崎議員は6月議会につづいて9月議会でも原発について、黒田市長の認識を質しました。

30km圏内に平戸市民9300人が生活

海を隔てて玄海原発と向き合う平戸市。玄海原発から平戸大橋まで、ちょうど30km。30km圏内に9300人が暮らします。事故が起これば大きな被害となります。平戸市には真剣な取り組みが求められます。

山崎議員はドイツやイ

タリアのように原発からの撤退を決断し、自然エネルギーへの転換をはかるべきだ、との立場で市長の原発についての認識を質しました。

答弁は、自然エネルギーへの転換はいいが、設備投資、住民の理解など問題がある、アジアで日本だけが脱原発でいいのか、というものでした。

自然エネルギーは原発の40倍

自然エネルギーが大きい

な可能性を持っていることは環境省も認めています。

太陽光・風力などで20億キロワット。日本にある全原発の40倍、日本の発電能力の10倍の発電ができます。

独立した規制機関の確立を

再稼働に向けたストレステストは、まず電力会社・原子力安全保安院・原子力安全委員会がテストを行います。

福島事故の収束もで

きない、「やらせ」まで行っていた3者にまかせられるでしょうか。

山崎議員は玄海原発の再稼働は急ぐべきではない、原発を批判し、政府や電力会社から排除されてきた学者・研究者を含めた、新たな規制機関をつくるべきだ、との立場で市長の認識を質しました。

答弁は、再稼働については県や関係自治体で国や九電に対し、安全対策の徹底を要請する、というものでした。

国際条約に違反をつづけた日本政府

日本も1994年に調印した「原子力の安全に関する条約」。「推進機関と規制機関は分ける」とあります。

しかし、共産党の指摘にもかかわらず、日本政府は推進機関(経産省)のもとに規制機関(保安院)を置いてきました。

松浦市長は「脱原発」

松浦市の9月議会。共産党の安江市議の質問に対して、市長は「将来的には」としつつも「脱原発が望ましい」と答えました。